

事業名 上田市本町地区コミュニティ・ゾーン形成事業

歩行者の安全を確保しながら、人と車の調和を図ろうとする、利用者等の評価の高い事業

受賞機関 上田市都市建設部土木課
 事業実施期間 平成10年8月4日～平成13年10月10日
 事業費 180百万円

事業等の特徴

住宅の密集している地区において、渋滞した幹線道路の迂回路として区内道路が利用されており、区内での通過交通量が多く、歩行者やそこで生活している者の安全性が損なわれていた。本事業において、ハンプ等を設置することにより、自動車の速度が制御されたり、インターロッキングブロック舗装により歩行者のための空間が明確になったことで、歩行者が安心して歩けるようになった。

事業の概要と利用者等の評価

当地区は、市の中心部に位置し、国道、主要地方道に囲まれている。朝夕の通勤、帰宅時には信号や幹線道路の渋滞回避のため、車が区内に侵入し、



整備前



整備後

迂回路として区内道路が利用されており、通過交通量が多いため歩行者等が自動車との間で危険にさらされていた。

このため、本事業により歩車共存道路として整備を行った。特徴とし

ては、自動車の運転手に注意を促すため、ハンプを設置したり、ポラード等を設置することで、歩行者の安全確保を図った。また、インターロッキング舗装や側溝整備により景観形成を図った。

整備内容：コミュニティ・ゾーン地区面積 $A = 9 \text{ ha}$

整備延長：海野町常田線他5路線 $L = 1,153 \text{ m}$

計画段階において、地元説明会を行い、事業についての理解を得るとともに、工法についての協議も行い計画を進めてきた。本地区は、商店街でもあり区内に侵入する車の違法駐車等に苦慮していたことから、本事業に期待された。

整備後の区内の住民による評価については、インターロッキングを色分けして設置することにより、歩行空間が確保されたことやハンプの設置により、車の速度が制御され、歩行者が安心して歩けるようになったことや、違法駐車がなくなり環境が良くなったことが評価されている。

審査委員会委員の意見等

- ・評価の具体的な中身がもう少し明らかになったほうがよい。
- ・住宅地内の安全確保はどこでも悩みの種である。具体的な手法と実験は重要と考えられる。
- ・歩行者優先の人に優しい道路整備であり、安全性向上の観点からも評価できる。
- ・参加型で事業計画の内容が詰められていったと思うが、そのことの効果と結果についての記述がないこと、また定性的主観的な評価にとどまっていることなどが問題点として指摘したい。



平面図